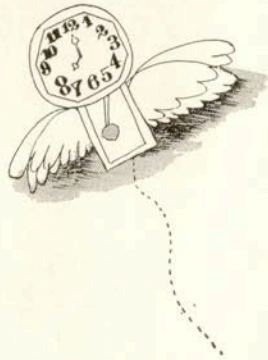


## 神戸百店会 だより



### ★神戸百店会

ポートアイランドを視察

国際港都が、押し寄せる交通革命に対して神戸の地形をいかして建設中のポートアイランドは、日々浮上して神戸大橋も完成が近い。

神戸百店会では、去る八月十三日、神戸商工貿易センター、ポートアイランドの視察を行ない、同時に神戸百店会総会を開いた。

当日、メリケン波止場に午前十時、盛夏の中神戸百



ポートアイランド風景

店会メンバーが十人、ランチに乗船して海上からポートアイランドを見学、神戸臨海開発局の案内で上陸して、広大な埋立地の利用とコンテナパースの規模についての説明に驚く。

ポートアイランドからは商工貿易センターが六甲を背景に、関西の超高層ビルがそびえている。商工貿易センターの二十六階に上がると神戸の街が一望でき、その景観がすばらしい。

その後、オリエンタルホテルで百店会総会を兼ねて昼食が行なわれ、神戸市臨海開発局長の佐野雄一郎氏の講演があり、今視察してきたポートアイランド並び商工貿易センターを含めての神戸港の開発と、臨海地区、市街地区、山麓地区を機能的に結びつけている神戸の開発の説明があり質疑応答がなされる意義ある集いであった。

### ★美容室エリザベスが

秋のブライダルショー



ブライダルショー

美容室エリザベスが、八月二日三日、六甲山ホテルで「秋のブライダルショー」と新作御婚礼衣裳展を開いた。涼しい六甲山へ集まった招待客は、サンドウッチとお茶に舌つづみをうちながら、花嫁の打掛け姿、お色直し、ウエディングススタイルなど三人のお嬢さんがモデルになつてのフロワースショー。畑尾美久子さんの今秋の花嫁衣裳のお話の後、資生堂のポスターと歌手としておなじみの団次郎さんが花ムコ姿で、また花ヨメ姿の歌手の小宮恵子さんと一緒に腕をくんであらわれ、それぞれのヒット曲を歌って、ブライダルショーの新趣好をみせたもの。チョット風変わりなアイデアに招待客は大喜びだった。

### ● ショップトビックス

★元町三丁目神戸眼鏡院は十月十日の新張開店を目ざして建築中。新店舗を少し紹介すると、外側はダークグリーン。内側はアイボリーの淡い色調。一階はショーウィンドウを広く取り、例の素晴らしいディスプレイを夜も見せてくれます。二階は最新設備の検査室。乞御期待。

★オリエンタルホテルの京都店も目下大建築中。外装はほとんど完成。オープン予定の来年三月まで内装に残り期間を費すというものの。どんな立派なものか、楽しみです。

★大丸前のみよしが、10月6日(月)有馬の古泉閣で午前10時から午後5時まで「錦逸品会」を開きます。一品一品充分に吟味された染、織、縫の秋のきを一堂に集めて展示いたします。きものファンにはのがせぬニュース。

★元町五丁目ハナグレルのお嬢さん、信子さん(29)が兵庫県万国博ホステスに選ばれました。昨年ミス神戸の大役を終えたばかり。今度は、万博で神戸っ子の意気を示そうとはり切っています。

★トアロードの「芸夢」が、八月二十七日オリエンタルホテルで「秋冬のファッションショー」を開き、若い女性に大変な人気でした。

★トアロードの「マクロス」が十月一日二日、オリエンタルホテル二階で展示会とショーを開きます。一日のショーは、秋冬のモードコレクションを披露し、その後で即売会もかねるしゃれた雰囲気のもの。ぜひご来場ください。

# ポケットジャーナル



## ★東京・大阪進出盛んな神戸の専門店

また今年も秋から冬にかけて、神戸の専門店の東京大阪進出が激しい。東京の赤坂目附に九月十三日にオープンする東急系のホテル・アカサカ・プラザに、花隈の「古紋」が、四十坪の料理店を開く。ここは「松の家」を経営する鶴殿礼栄さんの二世、曙富子さんが活躍する。京都の「吉兆」仕込みの腕で料理をうけもつ弟の清二郎さん。関西料理で、江戸っ子の舌をまいてみようというところか。何にしても、花隈ヤングパワリーの意気をみせてほしいもの。

さて十一月一日には、東京の元丸物で、新しく誕生する西武百貨店に、神戸のレイダイスの専門店が九店オープン。大丸前の靴の「ヨシオカ」舶来雑貨の「カセット」トアラードの着下とハンカチの店「ロズビ」コスチュームアウセサリーの「芸夢」セーター街の服飾

店「セリザワ」バッグの「美登里屋」傘の「あかし屋」元町の服飾店「マッサ」が出そろおう。ハイセンスを東京ファンに見込まれての出店。ますます人気上昇することだろう。

大阪は一カ月遅く十二月一日に、阪急の地下街に、「スギヤ」「セリザワ」「ベニヤ」「三宮時計店」「ファミリア」「竹葉亭」などが進出するが、ここは万博をめざして急上昇する交通ターミナル人口を目標に、全国から大阪に集まる客をねらうことになる。いづれには、神戸の専門店の進出には、神戸らしいユニークさを充分に發揮してもらいたいものである。

## ★世界にファンを持つ神戸のネコロジスト

玄関の飾り物、額、ハガキ、そして運ばれてきたカリスのパーズブーンまでネコの模様という、徹底したネコロジスト。

この人は大阪淀中学校の英語教諭、福田忠次(61)

先生(灘区大和町二丁目一の二五でんわ(四二九六七))ネコ好きといわれる人はどこにもいる。が、この福田先生、ただ好きだけではない。四年も前からユニークな編集とカットの面白い「ネコ通信」を毎月自費出版、全国のネコファンに送りつづけて53号。「猫の科学」というコラムを設けてねこの目はなぜ光るか、ねこの食物等、科学的なネコ研究の学徒である。



ハチ君

職業柄、外国誌まで手伸ばし、あちらのネコ雑誌を訳して日本のネコ愛好者に紹介し喜ばれている。E・H・エリオットの詩を訳した「ふざけ猫」をはじめ「猫は猫づれ」「猫礼賛」の著書三冊がある。庭には畳二枚程もある猫舎があり、五四のネコたちが悠々と生活している。ネコ取りと交通事故から守るためとはいえ、何とも結構なネコ君たちだ。

「可愛いでしょう。賢い動物ですよ。でも動物を飼うことは責任のいることです。心をこめて育てあげてくださいからね」と、話す福田先生の写真も一枚、うちの子のハンサムなハチ君をせひのせてやってくれと頂いたのが右の写真。なお、ネコロジアは福田先生の新造語。

## 誕生日ありがとう運動



「誕生日ありがとう運動」とは百名中三一四名は必ず生まれたという精神薄弱児(ちえおくれの子たち)に、正しい理解と愛情を、誕生日に百円献金していただくものです。

## □精神薄弱児街頭対話会開かる

「精神薄弱問題啓蒙図書」が9月精薄月間中に発行されるのを記念して、街頭対話会が開かれます。この対話会には、精神薄弱問題を社会の人に正しく理解してもらうことを目標に開かれるものです。

・日時 9月28日(日)

午後1時より

・ところ 元町東入口、明舞団地松ヶ丘センターの2ヶ所

たくさんのご協力をお願いします

「誕生日ありがとう運動」への献金の方法は、一〇〇円を住所氏名生年月日を書き添えて事務局へ郵送してください。

事務局 神戸市貴合区小野柄通二の五青陽養護学校内

誕生日ありがとう運動事務局

電話 一五五九

電話 一五五九

★御用とお急ぎの無い方は

△土曜劇場▽へ  
この神戸にも、一年中、芝居が見られる。△土曜劇場▽が誕生し、今月ではや三カ月目を迎えた。

この△土曜劇場▽は、毎土曜日夜六時三十分、葦合公会堂で開かれている。第一回の七月は劇団六甲第二回八月は神戸自由劇場、そして今月第三回公演は、神戸の道化座。

出し物は、大海原の真中に放り出された三人の男が飢餓の末、仲間を食べようとする恐しい人喰いの話、をコミカルなタッチで演じる「大海原で」。もう一本は、他人の夢と自分の夢の区別がつかなくなるという「魅惑の夜」。

出演は阿木五郎、須永克彦、野上哲也、ほか道化座員。  
なお、十年ぶりに森秀人が、そして細江田寛が協力出演するのが楽しみだ。  
上演は、九月六、十三、二十、二十七日の各土曜日入場券三百円。

★神戸カーニバル陰の功者F・カルドナブラジルの事東ドイツベルリンへ栄転  
神戸カーニバルの陰の功者、神戸ブラジル総領事館のF・カルドナ領事が、八月十五日東ドイツベルリン領事館へ転任された。  
神戸に四年間在留されたカルドナ領事は、行動の人

といっても過言でなく、陽気に、気さくに、神戸っ子の中に夫人共々、神戸っ子で、ブラジル・カーニバルパーティーや神戸カーニバルにおいて神戸っ子の常にリーダーシップ的存在で活躍された。

また、忙しい日程をさいて神戸外大、大阪外大などに出演。寸時を惜しんでの日本への傾倒ぶりと、また腰の軽さは、みならうべき点が多々ある。万博の仕事に名ごりを惜しみつつ、伊丹から夫妻は飛立った。カルドナ領事夫妻、神戸っ子のためにいろいろとオプブリガルド!!



F.カルドナ夫妻(左端)

★あま酒進上

市電三宮神社前で降りると、三宮神社の北入口に、小さなれんとおたふくをかかげた「あま酒の家」がある。四畳半の可愛い店内には床几にカスリの座蒲団。メニューは、あま酒(六〇円水あま酒も夏にはある)薄茶は、二つ茶屋の和菓子がついて百円。清楚



「あま酒の家」

な感じの上田ひろみさんというお嬢さんが運んでくれる。一年余り休んでいたこの店も三月からまたこのお嬢さんが一人で開店。近くの大丸のBGや参拝客がぼつぼつ利用している。このあま酒は、三宮神社が祭りにふるまうあま酒を、毎日参拝する人達にも店を出しているもの。麴から造るあま酒なので隠れたファンがいる。だからあま酒の代金は初穂料というわけだ。午前十時半〜午後七時迄。都会の中の田舎をみつけて一息をつくると心よい。商売上手な生田神社とこれまた対象的に葉村。

★ドイツの一流テラー

技術者実地講習会

神戸は紳士服のレベルが高いことで知られているが七月十日・十一日県民会館で、ドイツ一流のテラー「シュナイダー」から、W・フリンゲリー博士・ウェーバ博士の技術者を、全服連が招き、実地講習会が神戸で初めて開かれ、三五〇

★ドライブ

メモ

車の寿命  
川口陽之

(自動車評論家)

アポロイレブンが無事帰ってきただ。地球から月までは約三十八万キロある。途方もない長い距離のように思われるが、最近の自動車は、これくらいの距離なら簡単に走っている。タクシーは通常三年くらい使って新車に取りかえていくが。三年間でだいたい三十七万八千キロ走ってしまっている。その間、エンジンの分解整備(オーバーホール)は全然しないし、車体も大きな修理はしていない。タクシーあがりの中古車で、スビードメーターが四万キロというのは、たいして三十何万キロとみてよい。スビードメーターの積算距離計は十萬キロでゼロに戻ってしまうからである。

四十万キロも走って心配のない車を、マイカー族が三万キロや五万キロで代替するのは、非常にもったいない気がする。ところが最近の車は、走行距離よりも、年月の方が問題になる。極端にいえば月を往復する八十万キロを三年間以内にも走っても消耗部品以外故障は起きないとみてよい。それに反して、一年間に五千キロぐらい走るマイカーは、五年間で二万五千キロぐらいしか走らないが。この五年という年月は、車のあらゆる部品を弱めてしまう。走行距離に関係なく四、五年というように思っておけば間違いない。



1の特色でしょうね。神戸もレベルが非常に高い所なのでまあ良い面をたっぷり吸収させて頂きます」と余裕マンマン。

### ★安水稔和作放送劇

「葛城山」

### NHKFMで放送

名(市内一五〇名)が参加した。熱心に見守る技術者の中で、採寸、裁断、裁縫までモデルを使って二人は手際よく付上げてゆく。主催者竹田氏は「日本のテラーと比較できることと技術導入もできますやはり速度の合理性は見習うべきところがありますね。五時間には違ふ。男性的な面と身体にフィットするデザイン、これがドイツ・テラー

## 花時計



### 超特急「ひかり号」を停車させよう!

8月9日(土)の神戸新聞の市民版で、新幹線に超特急「ひかり号」を停車させる運動を市民ぐるみで推進させるべきだという記事があった。

いまのところ、国鉄側は

四年目、いまでは、市民の学校の文学を軸とするグループが次々と機関誌活動で創造に励んでいる。

個人が考えていることを自由に発表できる場を提供している市民の学校は、この四年を期して、その名も勇ましい「文学壘壕」を九月二十五日より発刊する。

「ニッポニア・ニッポン」などの放送劇でユニークな作品を発表している詩人の安水稔和氏が、七月二十六日午後十時十五分から、柿本人麿呂をテーマに放送劇「葛城山」がNHKFM放送で演じられた。主役の人麿呂には、芥川比呂志、朗読毛利菊枝、演出齊明寺似致子。

### ★市民の学校の成果を問う

「文学壘壕」発刊

神戸市民同友会の主催する市民の学校は、今年で満

超特急を新神戸駅に停車させることは運転計画上の問題であるとして白紙の立場をとっているというのである。

神戸商工会議所がスクラムを組んで超特急を停車させるため猛運動を展開すると報道されているが、これは大賛成、山陽新幹線の新しいステーションが出来て超特急「ひかり号」が停まらないというのではまったく画竜点睛を欠くことおびただしい。

超特急を神戸に停車させ

市民の学校受講者のみならず、一般からも小説、詩評論の三部門にわたって作品を募り、新人の起爆剤たらんとする意気込みである。創刊号はゼロ号とし、続けるかどうかはゼロ号次第というから、続けることに意義を見出す当今の同人誌に比べて異色である。

A5版・80P、六〇〇冊、一五〇円、連絡先/文学壘壕編集部(39・4306)

ないでいったい何処の駅にとめようというのかおよそ国鉄当局が図面でも見てアレコレ考えるのであらうが冗談ではない、日本最大の港湾都市にとまらない超特急なぞ噴飯ものである。しかし、こんな大変なことを市民が十分知っていること自体がおかしな話。これからの未来を考えれば、こんな運動こそ市、商工会議所はもちろん経済人も文化人もあげて頑張らねば、神戸の明日がない。

(K)

### ★コウベ

ムービーコーナー

「カラマーゾフの兄弟」



トルストイと並ぶロシアの二大文豪でもあるドストエフスキーは「罪と罰」や「白痴」で我国にも多くの愛読者を集めている。

彼の最高傑作と言われるのが愛と真実の小説「カラマーゾフの兄弟」で「神曲」「ファウスト」とともに世界文学の三大傑作である。この「カラマーゾフの兄弟」は「アンナ・カレーニナ」「戦争と平和」を上回る文学作品のもっとも完璧な映画化とさえ言われ、製作日数二年間である。

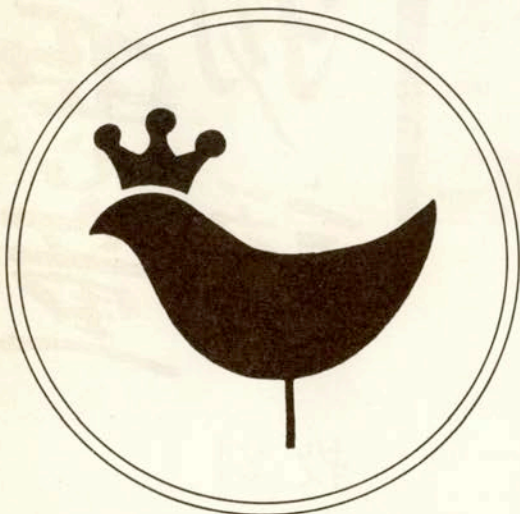
監督と脚色は「シベリア物語」「白痴」で知られる名匠イワン・アイリエフ。撮影はセルゲイ・ウロンスキー、音楽はイサック・シニウルツ。

出演はレーニン賞受賞者でアイリエフ監督の死後、演出を担当した名優、ミハイル・ウリヤノフをはじめ、マルク・ブルドキン、キリール・ラブロフ、女優ではアイリエフ夫人リョナ、アイリエフ、来日したモスクワ芸術座のスペトラーナ・コルコフなど、いずれも一流のソ連映画、演劇界の名優である。(3時間30分)

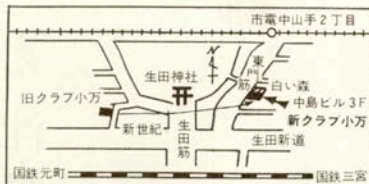
九月中旬迄、新聞会館大劇場にてロードショー公開。

●毎月応募ハガキの中から抽選で十名様を試写会にご招待します。

# CLUB 小万



CLUB 小万が8月18日より東門筋の中島ビル3階で新装開店いたしました。何卒よろしく。



神戸・生田区中山手1丁目85

中島ビル3階

TEL 39-0638 39-4386

リンゴ酢と蜂蜜で  
腕をふるった  
新しい“味”



神戸三宮生田ノ杜ノ西

鱈の又半

電話・三の宮 ㊦ 0935

# 非悪心童 物語

足立巻一  
之・津高和一

## 投擲 24

ぼくたちは「悪童」ではなかった。  
しかし「善童」でもなかった。

前号まで 父は二六新報という新聞の同人であったが、ぼくの生後四カ月で急死。母は実家に帰り、祖父母に育てられる。小学一年生のとき、祖母も死に、祖父につられて故郷長崎に引きあげたが、その祖父も急死し、孤児となる。親戚の寺や染物屋で養われていたが、急に神戸の母の実家へ引き取られ、そこから諏訪山小学校へ通うことになった。同級のトオルさんと友達になり、絵を描いたり、タルマツチをしたりして、毎日毎日遊んだ。中でも生田神社の森やおまつりは僕達の好奇心をおおっていた。また、阪妻に魅せられて場末の映画館をまわったり、覆面遊びをしたりしたのもこの頃である。このようにしてぼく達の旺盛な好奇心は、遊びや遊び仲間を通して日毎に季節毎に新しい経験と知識を与えてくれる。



ベッタンや玉入れや、チャンバラや野球や魚釣りよりも、ずっとおもしろいものがこの世にあるのを知ったのは四年生のときだ。

投書である。

「四年生」という雑誌があり、うしろのほうに読者の画や短歌や俳句や小品文を募集して、入選作品がのっている。ぼくはポプラの木のそばにレンガ造りの小屋をクレオンでかきなぐり、なんというつもりはなしに送ってみた。すると、おどろいたことには翌々月には「入選」となって、タテ五センチほどの小さいながら写真になって出ている。自分のクレオン画が黒白の写真に変化していることが、ふしぎに思われた。それよりも、そのすぐ

横に自分の住所と名とが活字になっていることのほうが驚異であった。自分が突然に何か大きなものに変身したように思われた。

ぼくはその雑誌をつかんで、さっそく家の裏のトオルさんに見せにいった。

トオルさんは「なんやねん？」といって、二重まぶたの大きな目をぼくの写真になった図画に近づけたが、それほど感心しようすでもなかった。ぼくはいくらか拍子ぬけがした。とともに、これはひとりでこっそり楽しむべきものではないか、と無意識のうちに考えたようである。たしかに、投書はこたえられないひとりだけの秘密の愉楽にちがひなかった。

そのことがあってから、ぼくは図画だけでなく、短歌でも俳句でも小品文でも冠句でもものは付でも、かたっぱしから投書するようになった。「ものは付」というのは題が出されて、それにコトバをつけるものだ。たとえば「長いものは」の題には「天からふんどし」、「待っていた」の題には「電車を見れば満員だ」という他愛ないコトバをつけるのだが、その他愛ないものが入選して活字になった。

そのころ、こどもたちのあいだでは「少年倶楽部」と「日本少年」とが一番人気があり、ほかに「飛行少年」「武俠世界」というようなものがあったが、ぼくは「美談」と「不思議の国」とを愛読した。というのは、手帳にそのころの雑誌の投稿規定をはりつけ、つきつぎに投稿したのだが、「少年倶楽部」や「日本少年」はいつも没で、それにくらべると「美談」「不思議の国」は投稿欄が多く、毎月のように何かが掲載されたからである。「美談」では入選すると、付録の「金の籠」という小形の冊子を賞品として送ってきた。

新しい雑誌が売り出される日も宙におぼえていて、学校からの帰りに本屋で立ち読みし、掲載されていると伯母にねだって買ってもらう。そして、投稿をくりかえすのだ。また、そのころ神戸新聞から週刊の「コドモ神戸

新聞」が出ており、これを読んではそれにも投稿した。

それがぼくの最大のたのしみとなった。

そのころ、駄菓子屋ではアテモンというのがあった。

一銭出せば四角い小さな紙ぎれを選ぶことができ、紙ぎれをはがすと等別があらわれる。たいていはスカであるが、ときには一等や二等をもさぐりあてた。一等だと大きなタイの砂糖菓子だ。投稿にもそのアテモノのようなおもしろさがあった。

しかし、それだけではなかった。自己を投擲するような愉楽があった。自分自分で投げるのだ。そして、入選して名前が活字になることによって自分の存在を確かめ、誇示する行為であったのちがひがない。同時に、それは肉親を持たない少年の孤独をひそかにいやす営みであったかもしれない。まだ、そんな自覚は生まれていなかったとしても。

そのうち、「少年文壇」という名古屋から発行されていた少年対象の投書雑誌を知って、投稿をつづけた。月刊四十ページたらずのうすっぱらな冊子であったが、ほとんど全ページが少年の投稿で埋まっていた。冠句や川柳やものは付の類はなく、作文と自由詩とが中心であった。編集発行者は原田謙次という人で、一度そのとびらに写真が出たことがある。庭の長椅子に寝そべったポーズであったと思う。長い髪をオールバックにし、片手で何かの本をひろげていた。かれは島崎藤村の傾倒者だったらしく、毎号藤村の写真か筆跡かが巻頭を飾り、かれ自身藤村の文章道を少年むけに解説していた。

ぼくの作文や自由詩は、気味がわるいほど毎年入選や佳作となり、ほめそやす評がつけられた。自分でもどうもそれほどの作品でないと思われるのも入選となり、ほかの人の作品とくらべてすこしテレた。学年に応じて選定の基準を変えていた結果らしい。

ぼくはこの「少年文壇」によって、次第に絵や手あたり次第の投稿から作文と自由詩とに移り、島崎藤村が一番えらい文学者だと信じこむようになった。そのころ、

ぼくは亭川という雅号を用いていた。物心もつかないうちにじいさんが勝手にぼくにつけてくれた号である。祖父の敬亭、父の菫川とを一字ずつ合わせたものである。

『少年文壇』は本屋では売っておらず、通信購読という方法であったが、一年ほどでいくら待ってもこなくなつた。

ひどく落胆した。

そのころから『少年倶楽部』を読み、投稿するようになったが、いっこうに掲載とはならなかった。読者レベルが高かったのだろう。

ただ、絵ではメダルをもらった。山口将吉郎の武者絵をうつして着色する懸賞募集があり、松井さんの指導でトオルさんと競争してかいた。ドーサ紙を買ってきて、それを原画にのせて引き写し、それに水彩絵具を塗って送った。なんでも、若武者の一騎打ちの絵のようであった。すると、思いがけずほくだけにメダルと賞状とが送

られてきたのである。このときだけは、あのトオルさんにも勝つたと得意であった。

そのころの挿絵画家には将吉郎のほかに、林唯一、斉藤五百枝、樺島勝一などという人が常連であったが、少年に一番人気があったのは高島華宵である。現代ものの挿絵ばかりを担当していたが、いつも目の大きくうるんだ少年少女をえがいてなかなか甘美であった。

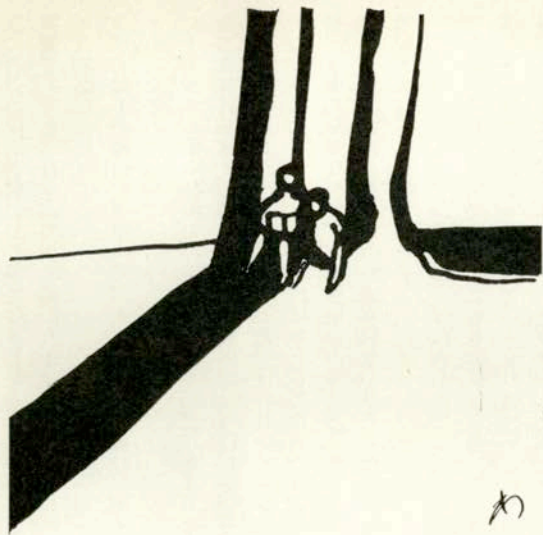
だが、ぼくとトオルさんとは華宵が大きらいだった。級友たちがほめそやすたび、「なんや、あんなニヤケた絵！」と毒づいた。

ぼくが大好きだったのは、谷洗馬であった。そのさし絵、口絵はいつも馬が登場していたが、その馬は荒々しいペン描きでいなないたり、疾走したり、躍りあがったりしていた。乱暴なほどの筆致であったが、馬はいつも生動していた。それではぼくは洗馬を偏愛した。つづいて、伊藤彦造という画家があらわれた。細いペンがきの精密きわまるさし絵であった。洗馬の荒々しさとともに彦造の精緻も好きで、ことにトオルさんはヒイキにし、手木にした。

読みものでは吉川英治の『神州天馬俠』や大仏次郎の『角兵衛獅子』が呼びものであったが、ぼくはむしろ佐藤紅緑の『あま玉林に花うけて』というのを熱読した。

苦学少年を集める下町の私塾黙々塾を舞台にして、不幸な少年たちの志しを奮い立たせる黙々先生、そこに学ぶトウフ屋のチビ小僧が逆境に屈せず奮闘し、それを正義感の強い旧制一高の学生が助け、いっぽう金持ち階級の中学生やその父の悪徳政治家がからみ、対比される。物語りはチビが一高の入学試験にみごと合格したところで終わるが、ぼくは毎月、チビの苦闘に興奮した。ぼくもトオルさんも自分の不遇から貧しいチビへの共感が大きかったであろう。自分をチビに同一化させて血をわかせるとともに、既成権力への憎悪をひそかに持つようになった。

その日から、四十年以上の歳月が流れた。



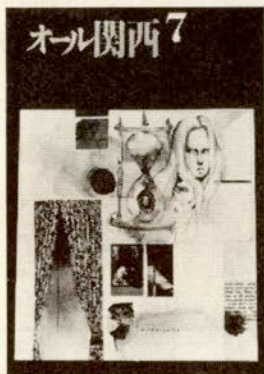


★関西の情報総合雑誌★

# オール関西

9月号 190円

書店発売中



表紙／石阪春生

## ★特集／尼崎ブルースカイ計画

- ・座談会 青空への挑戦
- ・アンケート 七千通の記名式アンケート
- ・レポート 公害と尼崎の未来

## ★特集／井植歳男追悼

三洋電機会長 井植歳男氏の逝去を悼む  
好嵐対話／砂野仁一好嵐  
書下し小説・群れる／杜山 悠

## ★好評連載企画

- 名作の中の関西・大谷兎一／画家との一時間／青木重雄
- ・ボンソワール・マダム／グループ登場
- ・山口ヒロシの世界体当り旅行
- ・向井修二の仲間診断
- 関西の話題／選れてきた多才の人・浅野翼氏
- 装道着物コンサルタント／織維センター他
- コラム／経済・科学・音楽・美術・マスコミの探点簿
- グラフィア／俳句のふるさと・日本の花
- 関西のすべてをガイドする

タウンカレンダー

昭和四十二年八月、「なつかしの少年倶楽部展」が大坂高島屋百貨店で催され、見にゆくと、洗馬のさし絵や紅緑の『ああ玉杯……』の原稿もならんでいた。そして、当時の編集長加藤謙一にお目にかかった。

佐藤紅緑が子規門下の俳人で新聞記者、小説家、劇作家であり、サトウハチロー、愛子の父であることを知ったのは後年であるが、そのころ紅緑は五十四歳で甲子園に住んでいたという。

加藤編集長が紅緑をたずね、少年小説の執筆を依頼すると「おれにこどもの読みものを書かせるのか」と怒った。加藤編集長が「少年をナメてはいけない。トルストイは七十五歳で童話を書きはじめている」といいかえずと口論になり、「考えておこう」ということで別れた。すると、しばらくして紅緑から突然に長距離電話がかかってくる。「題はできた。どうだ？」という。それが「ああ玉杯……」で、編集長が「結構です」と答えると、電話は切れた。何回書くともそのほかのことは一切いわなかったそうである。

「紅緑さんはその人生体験をこの一作にとめて全力で書いたんです。それが少年につうじたんですね。」

すっかり老いたかつての編集長は述懐したが、谷洗馬についてはこういった。

「自分で二頭の馬を持っていて、学習院の馬場で乗りまわし、町を歩くときもいつも拍車のついた長ぐつをはき馬蹄形を持っていました。カフスポタンから灰皿までみんな馬蹄形にこしらえ、三人の子にも全部馬の字をつけた」

谷洗馬はそんな馬キチガイであったのだ。それがさし絵にあらわれて、少年のほくを引きつけたのにちがいない。

ほくはこの加藤元編集長との会見のことを神戸新聞に書いたが、するとすぐ丁重な手紙がきて、なかに「実に要領よく渾然とまとめて下さいましたのに、深謝と共に深く敬意を表します。これまでしばしばインタビュウを受けたことがあります、こんなに親切にソツなくまとめていただいたことは珍しいのでいよいよありがたいことに存じて居ります……」とあった。

ほくは大いに気をよくしたが、考えてみるといつしか紅緑が『ああ玉杯……』を書いた年齢をすでに越えているのに気づき、暗然となった。

△つづく▽



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

## 三惠洋服店

元町4丁目 TEL ☎ 7290



あらゆる体型に  
フィットする  
お誂えシャツ



紳士洋品の店

## 千穂庵

元町4 TEL ☎ 6959



Mr. Kent  
came to Kobe  
流行に左右されない  
本来のおしゃれ  
それがKentです  
シックな  
スコッチ風の店舗  
それがFunakiyaです

おしゃれ洋品の店

## フナキヤ

元町3 TEL <33>3617



高級紳士服専門店

## 神戸テーラー

さんちかメンズタウン TEL ☎ 0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL ☎ 2817-3173



舶来雑貨 

元町店 元町2丁目 TEL 33-4707~8  
 そごう店 特選サロン サノヘコーナー

創作ハンドバッグ  
 工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町  
 ACCESSORIES

イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416



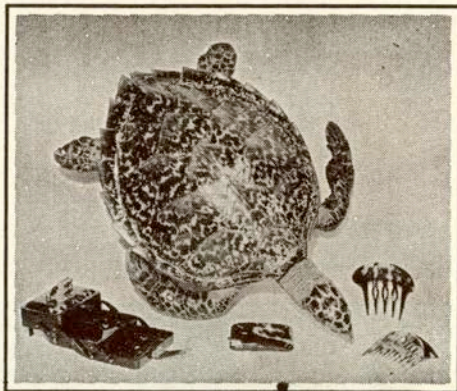
おもちゃの

カメヤ



およろこびの日の  
 美しい贈り物に  
 カメヤの人形を

三宮方面でのお買物は……  
 さんちが店 フォアミリートウン 045-40045  
 三宮店 センター1街大洋劇場東隣 045-49969  
 元町方面でのお買物は……  
 元町店 元町通3丁目山側 078-00090  
 パンプウ店 元町通1丁目不二家前 078-01758



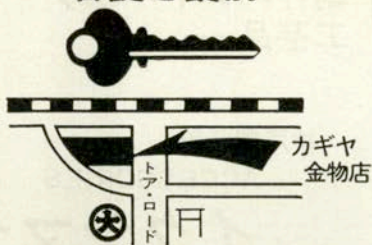
センスあふれる  
 ベッ甲専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL 336195

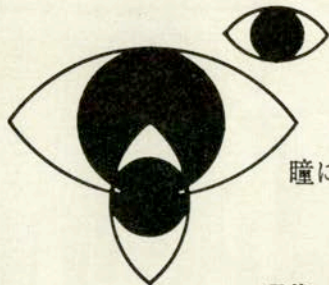
■インテリアデコレーション

合鍵と錠前



**カギ屋金物店**

KOBE 三宮・トア・ロード ㊟ 0193・6507  
OSAKA 心齋橋そごう地下一階



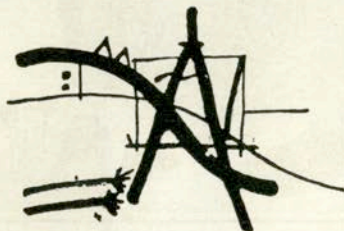
瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

**国際コンタクトレンズ研究所**

神戸市灘合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570

額縁絵画・洋画材料  
室内工芸品



**末積製額**

三宮・大丸北  
トア・ロード  
㊟1309・6234



羽アリを見たら  
**危険信号**

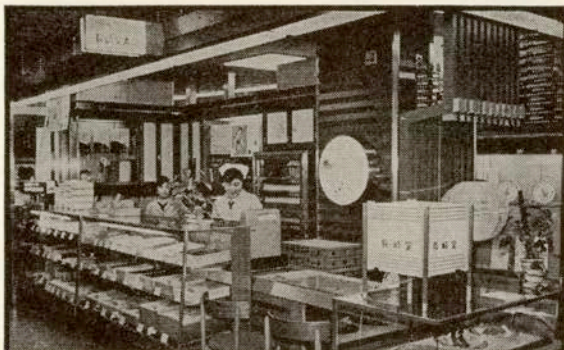


**白アリ**

一回全滅 十年間責任保証  
兵庫県環境衛生事業協会理事  
日本白アリ対策協会認定防除施工士  
神戸商工会議所会員

**アイワ消毒株式会社**

神戸市生田区中山手通 3～5 2  
トアロード筋  
TEL (39) 8636 (33) 0854



ご贈答に風味豊かなカスターラ

## 長崎堂本店

本店=大橋町5大五ビル(61) 0553-4  
 新開地店=松竹座前(56) 2423  
 元町店=元町6(34) 4130  
 さんちかスイーツタウン(39) 3625

The  
**Cosmopolitan**  
 Valentine F. Morozoff

## コスモポリタン チョコレート・キャンデー

神戸本社	神戸市生田区三宮町1丁目170	電話 33-5304
神戸直売店	神戸市生田区三宮町1丁目	電話 33-1217
大阪堺筋店	大阪市東区淡路町2丁目	電話 231-6979
大阪心斎橋店	大阪市南区安堂寺橋通4丁目	電話 251-4182
東京銀座店	東京都中央区銀座8丁目	電話 571-2303
東京新宿店	東京都新宿区角筈1丁目	電話 352-2436
東京有楽ビル店	東京都有楽町 有楽ビル	電話 213-2821
東京国際ビル店	東京都丸ノ内 国際ビル	電話 212-3746

創業明治二十八年

## 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL ㉟ 0256

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

高級  
 ハンドバッグ

海外旅行用  
 大型トランク  
 航空靴



## いなみ 大上靴店

神戸元町1丁目 TEL (33) 3962-4  
 さんちかメンズタウン・ポートタワー  
 大阪千日デパート1階

おすし  
てんぷら



崇  
彌



営業時間  
A.M. 11.30~P.M. 9.

本店 大丸前・三宮神社東

TEL ③③ 5 5 7 7 4 2

支店 さんちか味ののれん街

TEL ③⑨ 5 2 3 3

(毎週水曜日休み)



龜の井 龜井堂本家

神戸三宮トーアロード  
本店 33-0001  
南店 33-1616  
さんちかスイーツタウン  
電話 33-6532

ムツカサ

やっぱりうまい  
むさしのとんかつ

三宮  
ムサシ

でんわ・一三七七一

232333  
一〇六六三四

神戸っ子のみんなに愛される落ちついた喫茶店



ai

TEA ROOM

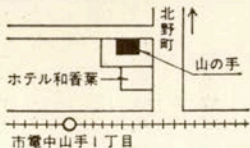
喫茶 愛

★神戸・元町本通元一ビル2階 TEL (32) 0958



SNACK  
**YAMANOTE**

神戸市生田区中山手1丁目  
ソネビル TEL 22-3637



**GRAMOUR**

生田筋・岸ビル地階 TEL 33-4637



スタンド **千里** 東門筋東神ビル地階  
TEL 33-4730



JAZZ BOX  
**Candy**

神戸市生田区加納町3丁目2  
TEL 33-3371

